



2024年2月2日

Osaka Metro Group

2023年度（2024年3月期）第3四半期決算

1. 2023年度第3四半期（10-12月）連結損益計算書（総括）

第3四半期の営業収益は、鉄道の運輸収入などの増加により、56億円の増加。
また、営業利益は、車両新造・更新等による減価償却費の増加などがあったものの、
営業収益の増加により、53億円の増益。
第3四半期も前年同期から大幅な増収増益を達成し、
9か月累計で新型コロナウイルス感染症からの着実な回復基調を維持。

（単位：億円）

【参考】

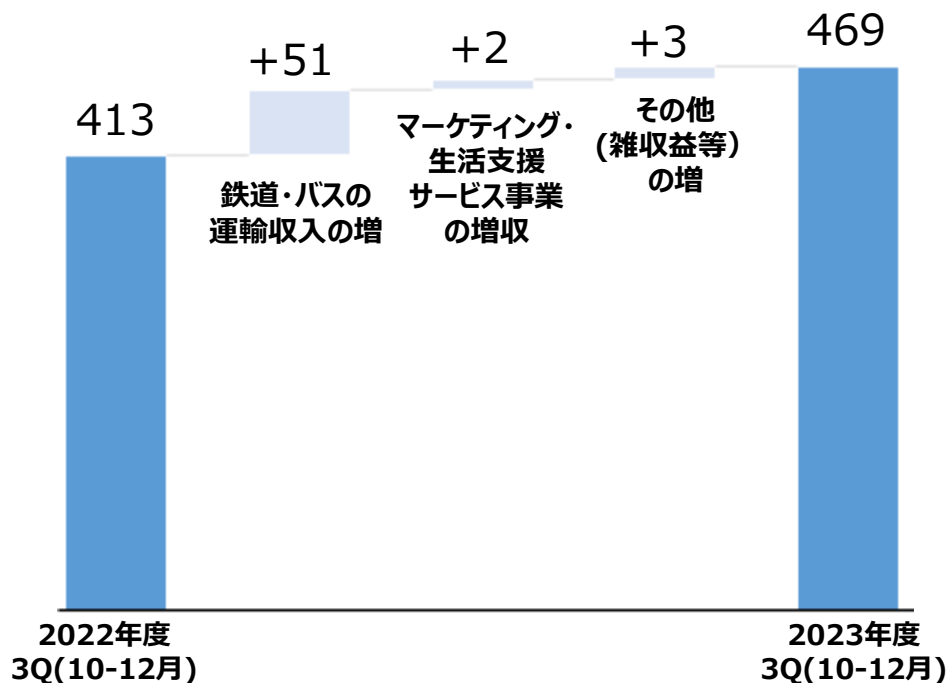
	2023年度 3Q（10-12月）	対前年同期 増減	2023年度 3Q累計	対前年同期 増減
営業収益	469	+56 (+13.6%)	1,379	+183 (+15.3%)
営業費用	359	+3 (+0.9%)	1,072	+24 (+2.2%)
営業利益	110	+53 (+92.4%)	306	+160 (+109.1%)
営業外損益	3	▲0	6	▲1
経常利益	113	+52 (+85.8%)	312	+159 (+104.0%)
特別利益	0	▲1	14	+4
特別損失	▲0	▲1	13	+4
法人税等	34	+16 (+86.3%)	95	+48 (+101.9%)
親会社株主に帰属する 四半期純利益	77	+36 (+86.3%)	214	+110 (+105.5%)

2. 2023年度第3四半期（10-12月）営業収益・営業利益の増減要因

営業収益では、鉄道・バスの運輸収入の回復に加え、マーケティング・生活支援サービス事業の地下街・駅ソトの直営店舗開業等により増収。
営業利益では、減価償却費の増加等があったものの、営業収益の増加や動力費等の減少に加え、運営の効率化等により、第2四半期に続いて大幅な増益を達成。

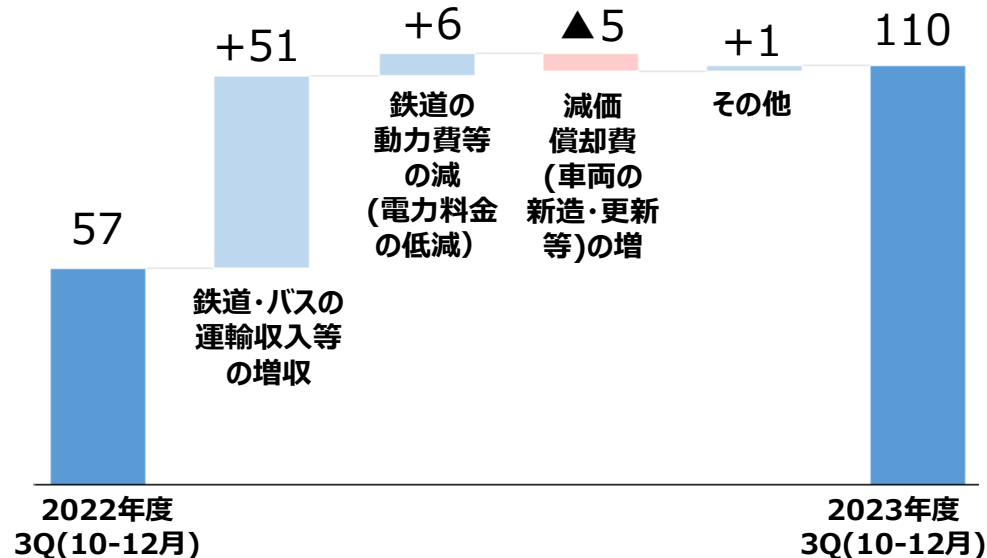
(単位：億円)

営業収益



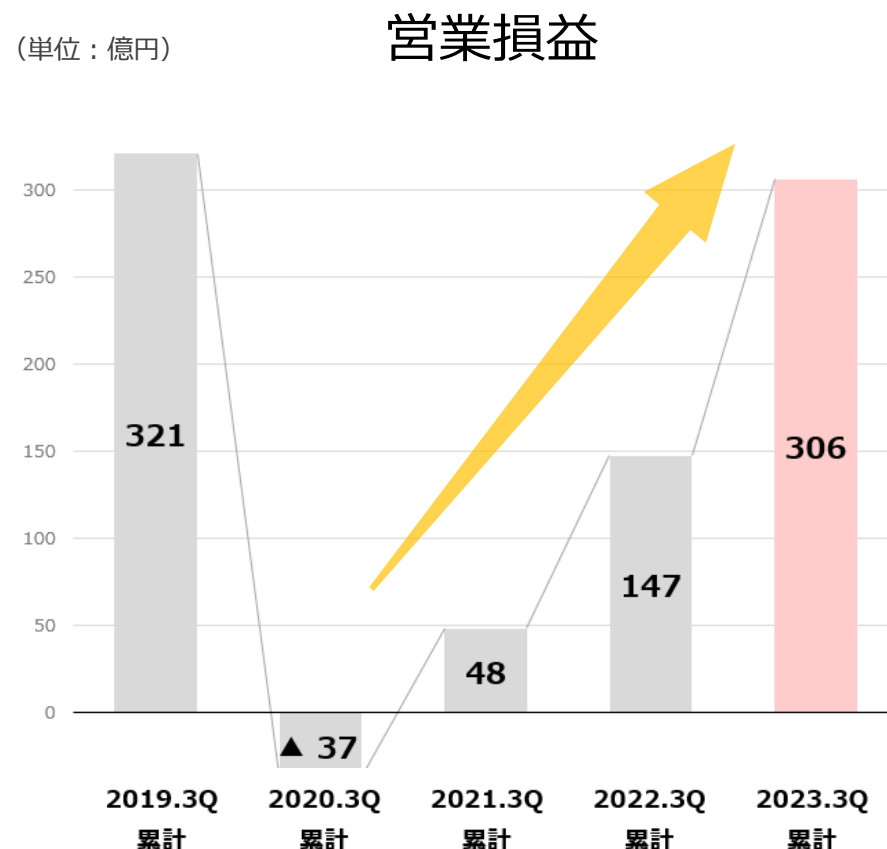
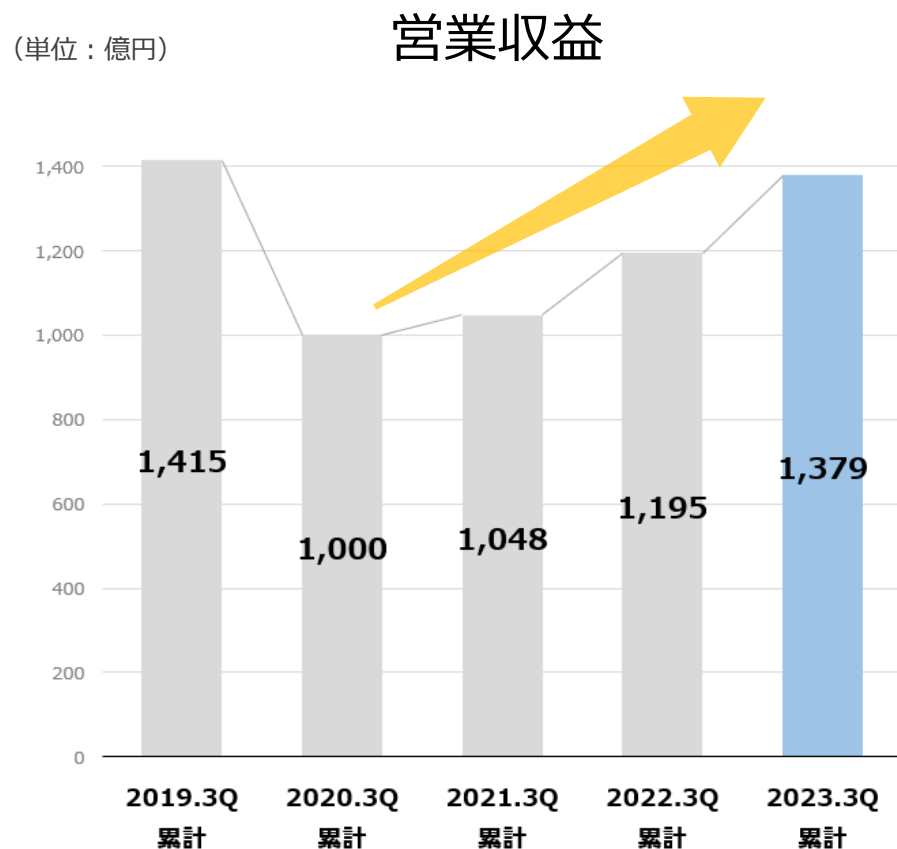
(単位：億円)

営業利益



3. 2023年度第3四半期（累計）連結業績の推移

営業収益は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて落ち込んだ2020年度から、運輸収入が着実に回復し、3期連続の増収。
営業損益は、営業収益の増加に加え、経費の効率的な運営に取り組み続けた結果、2019年度並みの利益水準を達成。



4. 2023年度第3四半期（10-12月）セグメント別の状況（総括）

鉄道・バスの運輸収入が増加した交通事業をはじめ、マーケティング・生活支援サービス事業、都市開発事業、広告事業など全ての事業において、第2四半期に続いて増収増益を達成。

(単位：億円)

【参考】

	2023年度 3Q（10-12月）		対前年同期 増減			2023年度 3Q累計		対前年同期 増減	
	営業収益	営業利益	営業収益	営業利益		営業収益	営業利益	営業収益	営業利益
合計	469	110	+56（+13.6%）	+53（+92.4%）		1,379	306	+183（+15.3%）	+160（+109.1%）
交通事業	434	102	+53（+13.9%）	+50（+96.7%）		1,278	287	+175（+15.9%）	+157（+119.7%）
鉄道事業	405	100	+50（+14.2%）	+49（+94.4%）		1,191	281	+167（+16.3%）	+150（+115.0%）
バス事業	34	2	+3（+8.7%）	+1（+477.8%）		101	6	+10（+10.8%）	+6（－）
セグメント内取引消去	▲5	(－)	▲0（－）	(－)（－）		▲14	(－)	▲2（－）	(－)（－）
マーケティング・ 生活支援サービス事業	30	4	+2（+6.1%）	+1（+56.2%）		88	10	+4（+4.6%）	+1（+17.9%）
都市開発事業	7	2	+2（+32.2%）	+1（+117.1%）		18	5	+4（+23.6%）	+2（+57.1%）
広告事業	10	2	+1（+14.2%）	+0（+15.1%）		26	4	+3（+12.4%）	+1（+19.4%）
その他	▲11	1	▲1（－）	+0（+12.7%）		▲32	0	▲2（－）	▲1（▲73.9%）

※「その他」には、グループ内受託事業およびセグメント間内部取引消去を含みます

5-(1). 交通事業の状況

営業収益は、鉄道・バスの乗車人員の回復やバリアフリー料金制度の導入※、沿線観光資源の発掘・情報発信や各種キャンペーンなどの増収施策により、53億円の増収。営業利益は、車両新造・更新等の投資に伴う減価償却費の増加などがあったものの、運輸収入の増加や動力費等の減少に加え、効率的な運営に取り組んだことにより、50億円の増益。

※同制度で収受した料金は将来にわたり全てバリアフリー設備の整備費等に充当

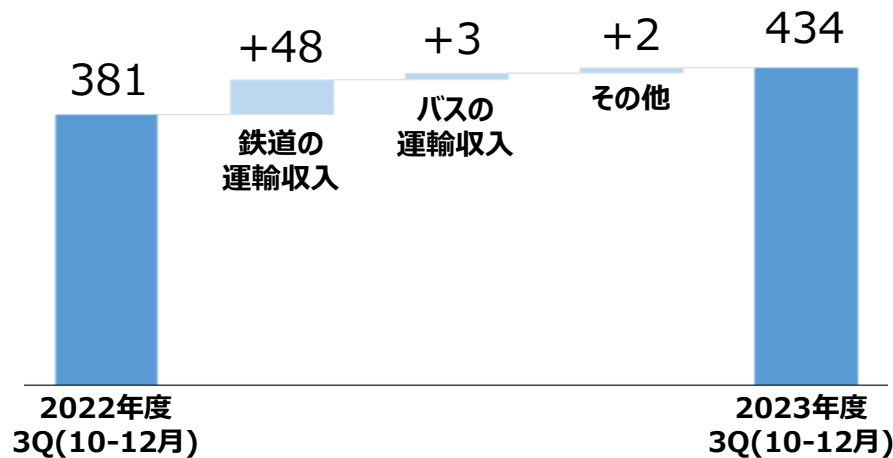
(単位：億円)

【参考】

	2023年度 3Q (10-12月)	対前年同期増減	2023年度 3Q累計	対前年同期増減
営業収益	434	+53 (+13.9%)	1,278	+175 (+15.9%)
営業利益	102	+50 (+96.7%)	287	+157 (+119.7%)

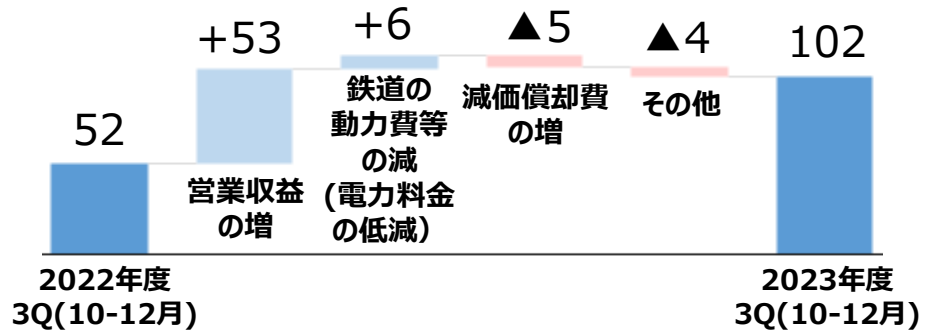
(単位：億円)

営業収益



(単位：億円)

営業利益



5-(1). 交通事業（鉄道）の乗車人員と運輸収入

前年同期に比べ、乗車人員は19百万人（+9.0%）増加。運輸収入は、乗車人員の増加に加え、バリアフリー料金制度の導入もあり、48億円（+14.1%）増加。

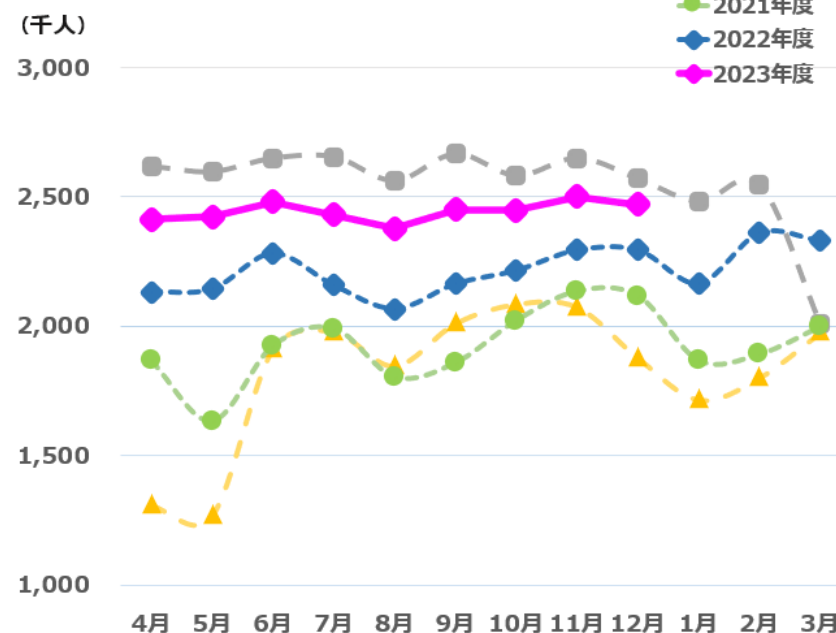
9ヶ月累計でも同様の傾向であり、乗車人員は68百万人増、運輸収入は161億円増。

（単位：千人、億円）

【参考】

		2023年度 3Q（10-12月）	対前年同期 増減	2023年度 3Q累計	対前年同期 増減
乗車 人員	合計	227,434	+18,753 (+9.0%)	671,780	+68,492 (+11.4%)
	定期	114,229	+5,040 (+4.6%)	341,870	+17,482 (+5.4%)
	定期券	79,613	+4,964 (+6.6%)	239,221	+16,970 (+7.6%)
	マイスタイル	34,616	+76 (+0.2%)	102,649	+512 (+0.5%)
	定期外	113,205	+13,714 (+13.8%)	329,911	+51,010 (+18.3%)
運輸 収入	合計	385	+48 (+14.1%)	1,134	+161 (+16.5%)
	定期	157	+12 (+8.4%)	468	+36 (+8.2%)
	定期券	98	+10 (+11.2%)	293	+28 (+10.7%)
	マイスタイル	59	+2 (+4.0%)	176	+7 (+4.3%)
	定期外	228	+36 (+18.5%)	666	+125 (+23.1%)

鉄道事業 1日当たりの乗車人員



5-(1). 交通事業（鉄道・バス）の主な取り組み

安全・安心、お客さまサービスの向上、各種イベントやキャンペーンなどの増収に向けた取り組みに加え、2025年大阪・関西万博に向けた取り組みについても着実に推進。

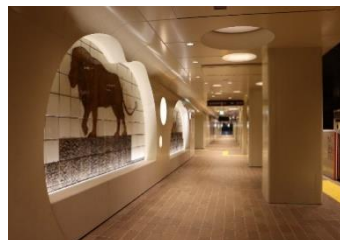
安全・安心の取り組み

<可動式ホーム柵の設置>

鉄道駅バリアフリー料金を活用し、四つ橋線 肥後橋駅に設置。
2023年度は四つ橋線・中央線の5駅に設置予定。

<地下空間の大規模改革>

御堂筋線 動物園前駅のグランド
リニューアルに伴い2023年10月に
内覧会を実施。
大阪港駅など8駅についても推進中。



<総合訓練の実施>

警察・消防などと共同で車内において有事が発生したことを
想定した訓練を2023年11月に実施。

増収に向けた取り組み

<タイアップ企画の実施>

沿線情報誌「Metrono」を発行する
などで、お出かけ需要の創出。企業と
タイアップし、オリジナル謎解き企画、
サッポロビールとのコラボ企画を実施。



お客さまサービスの向上

<5Gサービスの開始>

日本初の地下鉄隧道内5Gサービスを御堂筋線 心斎橋駅
からなんば駅間（駅間隧道含む）で開始。

<e METROアプリの機能拡充>

これまでの機能に加え、地下鉄の列車走行位置や
遅延発生時の車両停車位置、路線バスの接近情報や
時刻表などを確認する機能を追加。

大阪・関西万博に向けた取り組み

<車体ラッピングの実施>

大阪・関西万博の機運醸成を
目指し、御堂筋線3列車、
谷町線2列車に車体ラッピング
を実施。



<新型車両の導入>

中央線新型車両（400系）を2列車導入。

5-(2). マーケティング・生活支援サービス事業の状況と主な取組み

地下街や駅ソトの直営店舗開業等の増収により、先行経費を吸収し、増益。
賑わいや生活利便性につながるサービス向上への取組みを推進。

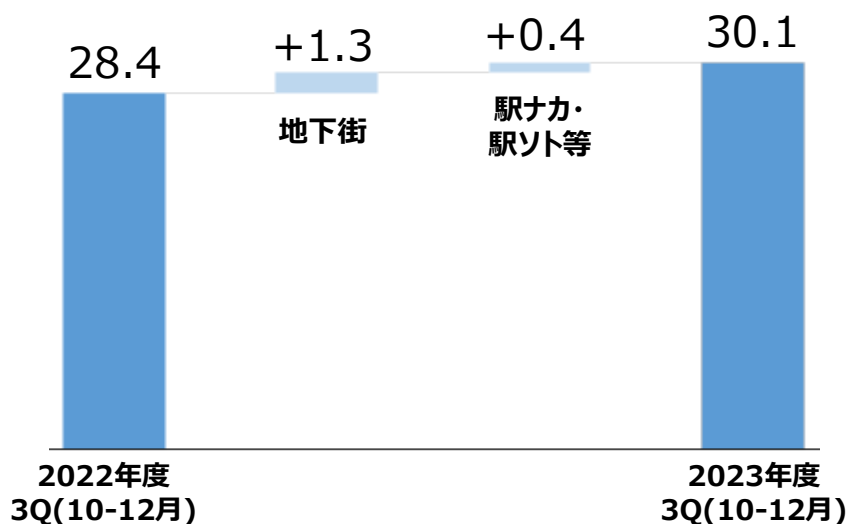
(単位：億円)

【参考】

	2023年度 3Q (10-12月)	対前年同期増減	2023年度 3Q累計	対前年同期増減
営業収益	30.1	+1.7 (+6.1%)	87.9	+3.9 (+4.6%)
営業利益	3.9	+1.4 (+56.2%)	9.7	+1.5 (+17.9%)

(単位：億円)

営業収益



地下街

<新規直営店舗オープン>

駅近の利便性を活かし、お客さまの多様なニーズにお応えできる店舗として、ブランド古着店「Kindal (カインドオル) なんばウオーク店」を2023年11月にオープン。



駅ナカ

<女性ヘルスケア応援自動販売機の設置>

鉄道関連施設としては初めて、飲料とあわせて女性用衛生用品が購入できる自動販売機を四つ橋線 なんば駅に設置。



5-(3). 都市開発事業の状況と主な取り組み

前年度・当年度に開業した宿泊施設やオフィスビルに誘致した新規テナントの賃料収入の貢献等により、増収増益。
住宅ニーズの高い駅周辺のマンション開発を推進。

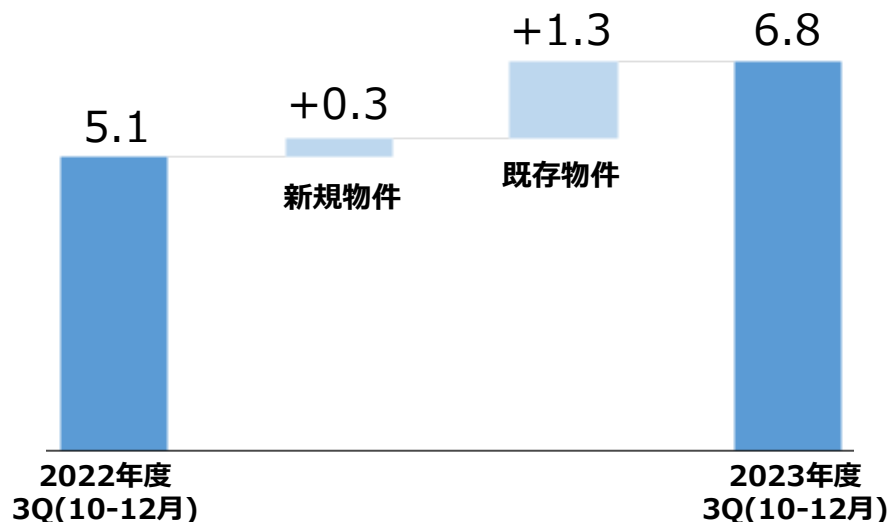
(単位：億円)

【参考】

	2023年度 3Q (10-12月)	対前年同期増減	2023年度 3Q累計	対前年同期増減
営業収益	6.8	+1.6 (+32.2%)	18.4	+3.5 (+23.6%)
営業利益	1.9	+1.0 (+117.1%)	5.0	+1.8 (+57.1%)

(単位：億円)

営業収益



メトライズ森ノ宮中央

Osaka Metroの新築分譲マンションブランド「METRISE(メトライズ)」シリーズ第2弾。
森ノ宮駅徒歩4分、地上15階・総戸数98戸。
2023年12月より、第1期分譲開始。



新築賃貸マンション

新築賃貸マンションブランド「Metrosa(メトロサー)」において、「Metrosa深江橋」が2024年1月に、「Metrosa京町堀」、「Metrosa谷町六丁目 North」が2024年2月に竣工予定。2023年10月より、入居者募集中。



<Metrosa京町堀>

5-(4). 広告事業の状況と主な取り組み

デジタル広告（駅・車内サイネージ）が堅調に推移し、増収増益。
電照看板の新設やクライアントと生活者を密に結びつける効果的なプロモーションを展開。

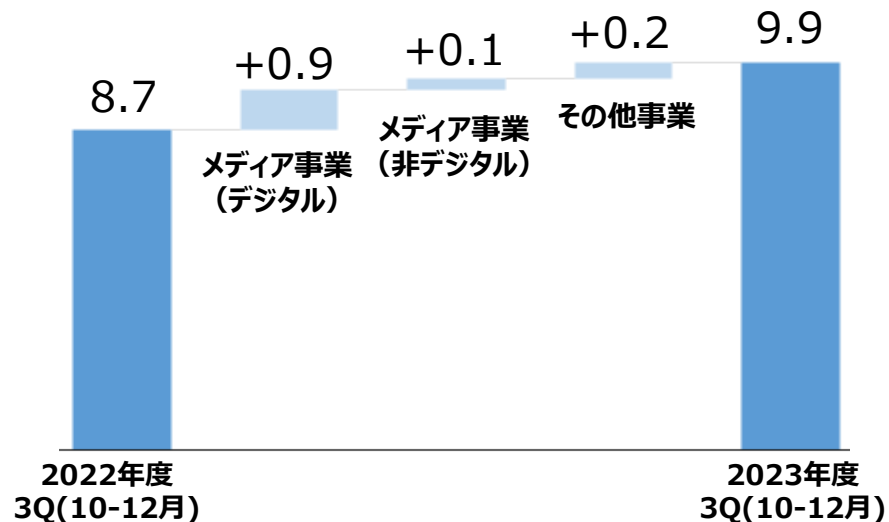
（単位：億円）

【参考】

	2023年度 3Q (10-12月)	対前年同期増減	2023年度 3Q累計	対前年同期増減
営業収益	9.9	+1.2 (+14.2%)	26.5	+2.9 (+12.4%)
営業利益	1.8	+0.2 (+15.1%)	4.2	+0.7 (+19.4%)

（単位：億円）

営業収益



メディア事業

＜新規メディア開発＞

なんば駅にベゼルレス大型LED電照看板を設置し、2023年12月より商品化。



＜新たな広告手法の開発＞

駅の広告枠であるショーウィンドウを使用し、静止画をLEDでコントロールすることで、画面が動くように見えたり色が変わる、新しい印刷技術を取り入れた広告の実証実験を2023年11月より実施。



＜自然光の時＞ ＜LED点灯時＞

6. 連結貸借対照表

投資は、可動式ホーム柵の設置や車両新造等の安全投資を中心に293億円実施。
有利子負債は、401億円圧縮し、財務健全性を確保。

(単位：億円)

	2023年度 3Q末	2022年度末	増減	主な増減要因
資産	9,597	9,845	▲248	
流動資産	501	750	▲249	現金及び預金 ▲257
固定資産	9,096	9,095	+1	
負債	3,890	4,383	▲494	
流動負債	1,683	2,178	▲495	コマーシャルペーパー ▲400 未払金 ▲108
固定負債	2,206	2,205	+1	
純資産	5,708	5,462	+246	
現金及び 現金同等物	247	504	▲257	
有利子負債	3,250	3,651	▲401	コマーシャルペーパー ▲400
ネット有利子負債	3,004	3,147	▲143	
自己資本	5,638	5,397	+241	

7. 2023年度 通期予想について

営業収益は概ね計画水準で推移しており、営業費用では継続的に経費の効率的な運営に取り組むことにより、前回発表（23年11月時点）の利益を上回る見込み。

（単位：億円）

	2023年度			2022年度	
	予想（今回発表）	前回発表	増減	実績	増減
営業収益	1,850	1,850	-	1,614	+ 236
営業費用	1,500	1,530	▲ 30	1,423	+ 77
営業利益	350	320	+ 30	191	+ 159
営業外損益	5	6	▲ 1	6	▲ 1
経常利益	355	326	+ 29	197	+ 158
特別損益	25	25	-	24	+ 1
法人税等	120	110	+ 10	70	+ 50
親会社株主に帰属する 当期純利益	260	241	+ 19	151	+ 109



**Osaka Metro
Group**